

2/10 復旧・復興の後押しを 能登半島地震被災地への職員派遣

1月1日に発生した能登半島地震で被災した石川県輪島市へ、これまで町職員2人を派遣しました。県と県内市町村職員の合同チームとして、現地の住宅被害の認定調査などの業務に当たり、帰庁後は吉本町長らに活動報告を行いました。

菊陽南小学校の稲葉恵美教諭も、県職員として輪島市に派遣され、現地学生の学習支援などに尽力しました。

今後も、職員を被災地へ派遣し、被災地の復旧・復興を支援していく予定です。



役場正面の総合案内で募金を受け付けています



災害派遣の報告を行う坂本主事

能登半島地震支援報告

危機管理防災課
さかもと だいじろう
坂本 大二郎主事



私はこのたび、総務省応急対策職員派遣制度の熊本県チーム第4陣として、2月10日から18日の9日間、石川県輪島市で災害支援業務に従事しました。

現地では、視界に入る家屋のほとんどが被害を受けており、道路は崩れた家屋でふさがり、「朝市通り」の火災現場はまるで空襲を受けた後のような惨状で、未だに焼け焦げた臭いが残っていました。テレビだけでは分からなかった凄惨な光景が目の前に広がっており、改めて今回の地震の被害の甚大さを実感しました。

今回行った支援業務の内容は、主に輪島市内の家屋の被害認定調査です。罹災証明書の交付体制を整えるために必要な一次調査であり、3人体制で家屋一軒一軒を歩いて回り、傾斜や被害度を測定しました。私の調査班は主に山間部や海岸沿いの地域を担当しましたが、レンタカーで移動中、情報にない土砂崩れや、道路の崩落などが原因で先に進めなかったこともありま

した。調査中、輪島市の住民の方々とお話しする機会もあり、大変な状況にも関わらず明るく接していただき、感謝していただいて、むしろ私たちが元気付けられました。

被災地では未だに住居や水、トイレの確保、道路の復旧、避難所、災害ごみ問題など、今後解決すべき課題が山ほどあります。今回被災地で見てきたものを活かし、次に私たちの町で同じようなことが起こる前に何ができるかを考えながら、町の防災力の向上に努めていきたいと思います。

健康・保険課
きくおか けんたろう
菊岡 謙太郎主事



私は総務省応急対策職員派遣制度の熊本県チーム第6陣として、2月22日から3月1日までの9日間、石川県輪島市で住宅被害認定調査を行いました。

3人1組の7班体制で、1日当たり200～300件の家屋を調査して回りました。私が担当したのは、家屋の損傷具合や傾斜を測定し、罹災証明書を発行するための判定を行う作業です。現地の方が一刻も早い罹災証明書の発行を待ち望んでいるため、緊張感を持ちながらも慎重に、熊本地震での経験を踏まえて調査に当たりました。私が調査を行った期間は、毎日雪や雨、あられが降り、厳しい寒さに悩まされました。熊本とは異なる冷え込みの中で予定通りに作業が進まない日もありました。

調査を通して被災地を実際に歩いて回り、痛感したのは、想像以上に復旧が進んでいないということです。現地では地震発生から2カ月経った今も断水が続いており、道路の至るところに大きな亀裂が入っています。瓦は落ち家屋は崩れたままで、地震発生当時からそのままの、言葉では言い表せないような状況でした。住民の方が安心して暮らせるようになるには、かなりの時間と継続的な支援が必要だと感じます。

短い期間でしたが今回の派遣業務に従事し、わずかでも復興に貢献できたことを誇りに思います。町職員としてだけでなく、一人の人間としても災害時に何ができるかを考え続けるとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。

2/6 男女共同参画社会づくりに貢献 県男女共同参画推進事業者表彰

町男女共同参画さんさんの会が、県男女共同参画推進事業者表彰の社会づくり貢献部門で表彰を受けました。この表彰は、よかつれフェスタを毎年開催するなど、長年にわたる男女共同参画社会づくりへの積極的な取り組みが評価されたものです。

村上緑会長は「今後も、町の発展とともに、男女共同参画社会の実現のため取り組みたい」と笑顔で話しました。



町に表敬訪問に訪れた村上会長(中央)と布田理恵副会長(左)

2/6 新しいことにチャレンジする大切さを発表 県商工会女性部連合会主張発表大会で最優秀賞

町商工会女性部の相馬まどかさん(三里木)が、県商工会女性部連合会主張発表大会で最優秀賞・県知事賞を受賞しました。「入部当時の私へ伝えたい」と題し、女性部での活動を発表。7月9日に熊本県で開催される九州大会への出場も決まっています。

受賞後、町を表敬訪問した相馬さんは「メリットを感じられず女性部に入ったが、今は楽しい場所になった。九州大会も頑張りたい」と話しました。



吉本町長に喜びを報告した相馬さん(左)



完成したアップルパイに笑顔の参加者

1/27 りんごの香りと笑顔がいっぱい 親子アップルパイ作り

ふれあいの森研修センターで親子アップルパイ作りを開催しました。親子で協力して手際よく調理を進めると、りんごの甘い香りと笑顔が調理室いっぱいに広がりました。

参加した児童の一人は「プロセッサーを初めて使ったので緊張したけれど、上手にできてうれしかった」と話し、保護者の一人は「子どもと一緒に作ることはあまりないので、とても良い機会になった」と話していました。

かわの ちほ
河野 千穂さん
平成30年4月28日生まれ(新町)
友達が困っているとすぐに「大丈夫？」と声をかけて手伝ってくれる、いつもみんなに優しい千穂さんです。

Happy Birthday

ぼくのわたしの
誕生日

三里木保育園

とみおか れん
富岡 廉さん
平成31年4月10日生まれ(三里木北)
ブロック遊びが大好きな廉さん。友達とおしゃべりを楽しみながら、いろいろなものを作って楽しんでいます。

2/29 協定締結後の交流を協議 台湾新竹県宝山郷が町を訪問

令和5年7月に友好交流協定を締結した台湾の宝山郷関係者が、町を訪問しました。宝山郷の邱振璋郷長は「飛行機を降りた瞬間、昨年と違う菊陽町の急速な発展を感じた。今後もさまざまな分野で交流を深めたい」と述べました。

また、町と宝山郷は、夏に互いの小・中学生がバスケットボールで交流する予定で、その詳細についても打ち合わせを行いました。



詳しくはこちら



完成した総合体育館を見学する宝山郷関係者

3/6 T S M C立地と日本一のまちづくり 福岡経済同友会が町を視察

福岡経済同友会経済調査委員会が町に視察に訪れ、委員長の吉田福岡銀行顧問をはじめ、代表理事の青柳 J R九州会長、恒久理事の石原 J R九州顧問の他、総勢60人が参加しました。

福岡経済同友会は、在福岡県の経済人約500人で構成され、日本経済の安定した成長や地域経済の開発・振興に貢献し、会員同士の啓発と親睦を図ることを目的とした団体です。

同会の吉田委員長は初めに「日本の産業界で最も注目されている菊陽町のことを詳しく聞きたい」とあいさつしました。

町は、T S M C立地に関する経緯と、それに伴う道路整備や駅を中心とした市街地整備など今後のまちづくり計画について説明。参加者からは、T S M C立地に伴う町の対応などについて多数質問があり、県内外からの本町への関心の高さを改めて感じる時間となりました。

町では、全国から注目されているこの機会に、さまざまな団体などと交流・意見交換を行いながら、T S M C進出による効果を実感できるようなまちづくりを進めていきます。



視察会には同会の会員約60人が参加



同会員と吉本町長、小牧副町長
(左から2番目から石原恒久理事、吉田委員長、青柳代表理事)

みんなの広場

投稿
募集中



皆さんが町民の皆さんに伝えたい情報や、活躍を掲載します。掲載月の2カ月前の月の15日までにご連絡ください。必ず掲載されるわけではありません。

☎ 総合政策課 企画政策係

☎ (232) 2112

✉ kouhou@town.kikuyo.lg.jp

バドミントンサークル メンバー募集!

一緒に体を動かして楽しみましょう。

日時 毎週(水) 午後1時～3時

場所 総合体育館

対象者 18歳以上のバドミントン経験者で、ダブルスゲームを楽しめる人(高校生不可、外国人歓迎)

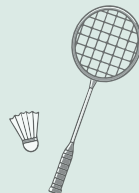
費用 月千円(前月前払い)もしくは1回500円

その他 スポーツ保険あり、見学可

LINEまたは電話でお問い合わせ

ください。

☎ 090(5728)1156 赤星



サークル公式LINE